

## 平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

◎普通科総合選択制の高校として、「入りたい学校」「入ってよかった学校」と言われる、地域に信頼される学校

1. 普通科総合選択制の特長を活かし、多様な進路希望を持つ生徒に対し、各教科・科目の指導を通して「確かな学力」の向上を図り、そのニーズに応え、『夢のかなう学校』をめざす。
2. さまざまな活動や体験を通して、広い視野と協調の精神を培い、「人権意識」が身についた、「他を思いやる心」を持つ生徒を育てる。また、在籍する障がいのある生徒への支援を積極的に行うとともに、中国等帰国生徒及び外国人生徒と日本人生徒の「共生」をめざす。
3. 自主的な生活態度や自らの行動に責任をもつ生徒を育てるとともに、リーダーシップがあり、自分の意見をはっきり言える生徒が育つ学校をめざす。
4. 生徒が「安全で安心」して学校生活を送れる学校づくりと、地域から信頼され、地域に根ざした学校をめざす。

## 2 中期的目標

## 1. 確かな学力の育成と進路実現

(1) 基礎的・基本的な学力の定着をめざした教育課程のもとに、きめ細やかな学習指導を行い、確かな学力を育成する。

ア 教員の授業力の向上を図り、生徒の「学ぶ意欲」が向上する授業を展開する。

(2) 希望する進路が実現できる「多様な力」を生徒につける。

ア 進学意欲を向上させ、学力アップを図る。

イ 就職合格率のアップを図る。

※生徒向け学校教育自己診断の「自分の学びたいことがらを学べる」という項目における肯定率を、平成 28 年度には 80%にする（平成 25 年度は平均 74%）。また、学校幹旋就職率 100%を維持する。希望する大学・短大・専門学校への進路実現率 95%を維持する。

## 2. 生命と人権を尊重し、「豊かな心」をはぐくむ

(1) 「総合的な学習の時間」やLHRを通して人権教育を充実させる。

ア 中国帰国生徒や外国人生徒の学習状況や活動状況を校内で共有し、日本人生徒との「共生」を図る。

イ 障がいのある生徒や課題を抱える生徒への支援を行う。

※生徒向け学校教育自己診断の人権に関する項目における肯定率を、平成 28 年度には 70%にする（平成 25 年度は平均 63%）。

## 3. 自主性とリーダーシップのある人材の育成

(1) 学校行事の充実を図るとともに、生徒会活動や各種委員会活動を活発にする。

(2) 部活動の活性化に継続的に取り組む。

※年度末時における部活動の加入率 50%を維持する。また、生徒向け学校教育自己診断の学校行事・部活動に関する項目における満足度を平成 28 年度には 60%にする（平成 25 年度は 58%）。

※保護者向け学校教育自己診断の学校行事・部活動に関する項目における満足度を平成 28 年度には 65%にする（平成 25 年度は 60%）。

## 4. 「安全で安心」な学校づくりと、地域から「信頼」される学校づくり

(1) 「安全で安全」な学校づくりを行う。

ア 生徒の規範意識を醸成するとともに、課題を抱える生徒への支援を強化する。

イ 生徒と向き合う時間を確保し、生徒指導の充実をはかる。

(2) 学校から積極的に情報を発信し、開かれた学校づくりを行う。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 11 月実施分]  | 学校協議会からの意見   |
|---|--|
| <p>【学習指導等】</p> <p>・生徒の 81%、保護者の 86%が「この学校には他の学校にない特色がある」と答えており、生徒の多様な興味関心に応えるエリアや選択教科が高い肯定率の大きな要因となっている。また「選択教科が工夫されている」と答えた生徒は 80%に及ぶ。一方、これまでの学習経験のなかで疎外感を感じた生徒も少なからずおり、生徒に自信をもたせ「学ぶ意欲」を向上させる方法を、学校全体で検討する必要がある。</p> <p>・「環境、国際理解、福祉」などの今日的な学習をしているという回答が 63%、「コンピュータやプロジェクターを活用している」という回答も 71%を超えており、生徒の授業に対する満足度は依然高い。</p> <p>【生徒指導等】</p> <p>・生徒指導の面で 87%以上の保護者が生徒を正しい方向に指導し、いじめや暴力のない学校作りに取り組んでいると評価している。また、保護者の 73%が「学校は教育方針をわかりやすく伝えている」、67%が「生徒指導の方針に共感できる」と答えており、昨年度に比べ大幅に増加した。また、記述意見からも「厳しい」指導自体を否定している保護者は少なく、将来や進路指導でも必要であるとする保護者もいて、少しずつ保護者の理解が進んでいる。</p> <p>・生徒の 72%が「生徒会活動は活発である」と答えている。昨年度に比べ肯定的な意見が増えたのは、3年生の生徒会役員が中心となって、3年間生徒会活動の活性化に懸命に取り組んだ姿を多くの生徒が認めた結果である。今後、全ての学年で「やる気のある」生徒のリーダーシップを育て、社会貢献する態度を育成することが、生徒の自主性を伸ばすとともに生徒会活動、さらには学校生活の活性化につながっていく。</p> <p>・文化祭や体育祭等の行事、部活動活性化等における生徒会役員の貢献は非常に大きい。生徒会役員や生徒委員会を中心・リーダーに据え、全ての学年で生徒会活動への肯定的な意見を増やす必要がある。また、生徒会を中心に学校説明会などでもさらに生徒が活躍できるように工夫したい。</p> <p>【学校運営等】</p> <p>・「相談に適切に応じている」と答えた保護者は 81%で、昨年度に比べると大幅に減少した。今後、さらに連携を密にして共通認識を持つことが必要である。一方「困っていることに真剣に対応してくれる」と答えた生徒は 56%だった。教員と生徒が関わる時間（量）の確保とカウンセリングマインドをもった生徒との関わり（質）を学校全体で検討し、工夫する必要がある。</p> | <p>第 1 回（平成 26 年 5 月 26 日）</p> <p>①確かな学力の育成と進路実現<br/>授業の改善や工夫のために、3 年前から授業充実研修を実施し、本年度は特に、中国等帰国生徒や外国人生徒の指導方法を検討するなど、教員の資質向上を図っているのは評価できる。また、授業公開を積極的に推進していることも評価できるが、もっと保護者が授業参観できる方法を考える必要がある。</p> <p>②生命と人権を尊重し豊かな心を育む<br/>高校生活支援カードを活用したり、保健だよりを発行したりして、積極的に課題のある生徒を支援していることは評価できる。</p> <p>第 2 回（平成 26 年 10 月 7 日）</p> <p>①地域から信頼される学校づくり<br/>地域連携でいろいろなイベントに参加していただき感謝している。地域でもイベントについて考え直す時期に来ているので、イベントに参加する生徒がどのように感じているのか知りたい。</p> <p>②部活動<br/>部活動加入率を上げるために、様々な工夫をしていることは評価できるが、加入率 50%をクリアできない原因を分析する必要がある。生徒がやりたい部を設置するとか、外部から専門指導員を導入するなど、今後さらなる取組みの工夫を期待している。</p> <p>第 3 回（平成 27 年 1 月 26 日）<br/>学校教育自己診断について</p> <p>①人権教育に力を入れ、様々な行事や活動を積極的に実施していることは評価できるが、人権教育についての生徒の肯定的な評価が 54%に過ぎない。これは、アンケートの質問が抽象的すぎるからかもしれない。今後は、質問の文言を検討し、より具体的にすることが必要である。</p> <p>②教育相談については、学校としての相談体制がしっかりしている（教職員の評価 90%）ことは評価できるが、生徒の意識は 40～50%に過ぎない。これは、教育相談を受ける生徒が少ないからかもしれない。今後は、生徒が気軽に利用できるシステムが必要となる。</p> |

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標                    | 今年度の重点目標   | 具体的な取組計画・内容   | 評価指標  | 自己評価  |
|--------------------------|--|---|---|---|
| 1<br>確かな学力の育成と進路実現       | (1) 確かな学力の育成<br>ア 生徒の学ぶ意欲を高める授業の創造<br><br>(2) 進路実現への取組み<br>ア 進学意欲と実績の向上<br>イ 就職希望者の指導の充実 | (1)<br>ア・生徒による「授業アンケート」を分析し、各教科による授業改善を継続する。<br>・授業充実研修を実施し、「わかる授業」「魅力ある授業」を探求し、授業力向上を図る。<br>・ICT や地域連携事業を活用して、エリア指定科目・自由選択科目の内容を充実させる。<br><br>(2)<br>ア・進学希望者の進学先に応じた小論文や面接指導を実施し、進路実現を積極的に支援する。<br>・本校オリジナルの進路説明会、分野別説明会進路体験学習を充実させる。<br>イ・キャリア教育の一層充実を図り、生徒の資質や能力を高める指導を推進する。基礎学力の向上をめざし、小テスト等に継続的に取り組む。<br>・就職支援コーディネーターを活用して模擬面接、インターンシップ等を一層充実させる。 | (1)<br>ア・「授業アンケート」結果における授業展開に関する肯定的意見 75%<br>・生徒向け学校教育自己診断の選択教科の時間に関する満足度 75% (平成 25 年度 74%)<br><br>(2)<br>ア・希望する大学・短大・専門学校等への進路実現率 95%を維持する<br>医療・看護系の進路実現率 60% (平成 24 年度 58% 25 年度 86%)<br><br>イ・一回目の就職試験合格率 70%以上を維持する<br>・学校斡旋希望者の就職率 100%を維持する | (1)<br>ア・授業アンケートの「授業展開」について、第 1 回 82%、第 2 回 80%が肯定的な回答をしている。(◎)<br>・生徒の 81%、保護者の 86%が「この学校には他の学校にない特色がある」と答えており、生徒の多様な興味関心に応えるエリアや選択教科が高い肯定率の大きな要因となっている。(◎)<br>・生徒の 80%が「選択教科の時間は工夫されていて自分の学びたいことがらを選べる」と答えている。(◎)<br><br>(2) ア 1/7 現在、大学・短大・専門学校等への進路実現率は 98%、医療・看護系は 37%で、看護系が昨年よりダウンしている。(○)<br>イ 就職試験の一次合格率は 72%、1/7 現在の内定率は 90%。卒業までに全員内定が貰えるよう引き続き指導していく。(○)   |
| 2<br>生命と人権を尊重し「豊かな心」をほぐ  | (1) 人権教育のさらなる充実<br>ア 「中国等帰国生徒及び外国人生徒」と「日本人生徒」との共生<br>イ 障がいのある生徒等の理解推進                    | (1)<br>ア・「総合的な学習の時間」や LHR で、人権教育に関する指導を充実させるため、多文化理解講演会、人権講演会を実施する。<br>特に、1 年生は中国文化理解 LHR で、中国帰国生徒の卒業生との交流や、中国食文化などの体験学習を行う。<br><br>イ・「高校生活支援カード」等を活用し、必要に応じて「個別の教育支援計画」を作成する。<br>・障がい者理解講演会の実施。特に 1 年生は車いすやアイマスク体験学習を行う。   | (1)<br>ア・生徒向け学校教育自己診断の人権に関する項目における肯定率 65% (平成 25 年度 63%)<br><br>イ・学校教育自己診断の当該質問事項における肯定率 50%  | (1)<br>ア・生徒の 51%が「豊かな心や人の生き方について考える機会がある」、57%が「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」と答えている。肯定率は左記の評価指標の目標 65%には至っていない。<br>3 年生については 65.4%と指標を超えているが、全体としては 54%となっている。様々な取組みをしているが、生徒が人権教育と意識していない面もある。今後さらに人権的な課題を総合的な学習の時間や多文化理解公演会等で計画的に実施していく必要がある。(△)<br>イ・今年度からサポート委員会を設置し、支援カードの活用方法を検討している。56%が「先生ははじめなど私たちが困っていることについて真剣に対応してくれる」と答えている。(◎) 今年度は人権学習を見直し、人権講演会を 2 年次に実施することにした。1 年生は学校の教材を利用してより体験型学習を重視していく。  |
| 3<br>自主性とリーダーシップのある人材の育成 | (1) 生徒自らが全ての学校行事に積極的に参加する体制作り リーダーシップのある生徒の育成<br><br>(2) 部活動を通じて自己有用感を醸成し、自尊感情を高める       | (1)<br>・生徒会執行部、部活動代表者が連携し、体育祭・文化祭を企画運営する。<br>・生徒会執行部、部活動代表者等が学校見学会や説明会で一定の役割を担うことができる体制作りを行う。<br><br>(2)<br>・新入生オリエンテーション、体験入部を生徒主体で実施できるよう指導する。<br>・成功体験を通して自己肯定感を高める。   | (1)<br>・生徒向け学校教育自己診断の学校行事・部活動に関する項目における満足度 60% (平成 25 年度 58%)<br>保護者向けは 2%アップ (平成 25 年度 60%)<br>・学校行事後の生徒向けアンケートにおける満足度 90%以上<br><br>(2)<br>・部活動加入率 50%を維持する<br>・大会やコンクールの入賞数 5 以上をめざす  | (1)<br>・学校行事・部活動に関する項目における満足度は生徒は 62%、保護者向けは 66%になり、昨年度よりも上昇している。(◎)<br>・実施後のアンケートにおいても 98%の生徒が良かったと答えている。これには生徒会執行部の頑張りによるものが大きい。(◎) 今後はさらに生徒会執行部を中心に学校見学会などで活躍できる場を設ける。また、部活動についても全部員が関わることができる体制をつくっていくことが必要である。<br><br>(2)<br>・部活動加入率は、1 年生は 50%を維持しているが全体では 46%になっている。(△) 昨年同時期より上がっているものの、加入率を高めるために体験入学等の入学当初の取組みや大会入賞の支援を続け、来年度は中学生対象の体験入部を実施する。<br>・放送部：第 6 1 回NHK杯全国高校放送コンテスト大阪大会ラジオドキュメント部門第 2 位、書道部：第 3 5 回大阪府高等学校芸術文化祭書道部門奨励賞、美術部：第 6 6 回大阪府高等学校美術工芸展 優秀賞、国際文化部：獨協大学第 2 回英語プレゼンテーションコンテスト全国大会 3 位。バドミントン部、水泳部、サッカー部も堺市レベルでそれぞれ入賞している。(◎) |

## 府立成美高等学校

|  |  |  |   |   |
|--|--|--|---|---|
| <p>4 「安全で安心」な学校づくりと、地域から「信頼」される学校づくり</p> | <p>(1)安全で安心な学校づくり</p> <p>ア 生徒の規範意識の醸成</p> <p>イ 校内の教育相談体制のさらなる充実</p> <p>(2)地域との連携強化</p> | <p>(1)</p> <p>ア・全教員による登校指導を継続実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>遅刻指導や服装指導の徹底を図り、基本的な生活習慣を確立させる。各学年ごとの放課後指導を継続実施する。</li> </ul> <p>イ・高校生活支援カードを活用し、教育相談委員会やスクールカウンセラーとの連携により、課題を抱える生徒の状況把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人権教育推進委員会、CF委員会（中国帰国生徒及び外国人生徒に対する検討委員会）が連携し、生徒状況について情報共有、迅速な対応を図る。</li> </ul> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域のイベント等への積極的参加</li> <li>校区一斉清掃活動への参加</li> <li>近隣小中学校との連携、広報活動</li> <li>「安全で安心な学校づくり推進事業」テーマ別共同研究校としての役割を担う。</li> </ul> | <p>(1)</p> <p>ア・生徒一人当たりの遅刻回数 5.2 回を維持する。</p> <p>生徒向け学校教育自己診断の基本的習慣の確立に関する肯定度 73%（平成 25 年度 72%）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の懲戒件数 15 件を目標とする</li> </ul> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断の教育相談に関する項目における肯定度 50%（平成 25 年度 44%）</p> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域のイベント参加数 10 件をめざす</li> <li>清掃活動への参加人数 15 人以上</li> <li>近隣の 13 中学校訪問を最低 3 回ずつ実施。今年度立ち上げた連携事業を継続。</li> <li>要請に応じて講演活動を行い、多言語進路ガイダンスの充実に努める。</li> </ul> | <p>(1)</p> <p>ア・生徒一人当たりの遅刻回数は、3.5 回。遅刻回数の多い生徒がいるが、全体として減少している。</p> <p>(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な生活習慣の確立に関しては生徒は 71%（△）、保護者は 87%の肯定度があった。今後も引き続きねばり強く指導をおこなっていく。</li> <li>生徒の懲戒件数は、学年集会等で未然防止に努めたが、最終 17 件になった。（△）</li> </ul> <p>イ・「担任以外で親身に相談できる先生がいる」という生徒の回答は 44%だった。（△）一方、教職員の 94%が「教育相談体制が整備されている」と答えている。スクールカウンセラーを活用し、のべ生徒 25 回、保護者 5 回のカウンセリングで生徒・保護者支援ができた。（○）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人権教育推進委員会は毎週、CF 委員会は 12 月までに 5 回実施。次年度も継続して情報の共有、迅速な対応に心掛ける。</li> </ul> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域のイベント参加数は、中国文化『春暁』倶楽部、ワンワールド、吹奏楽等、文化部など、のべ約 20 回。（◎）</li> <li>地域清掃は、校区一斉清掃(6/1)に 34 人、南区クリーンキャンペーンに 28 人参加。（◎）地域との連携では、人文地域エリアによる小学生対象の縄文土器制作、福祉こどもエリアの育児サークルやパンダフル号の移動販売など、活発に活動している。（◎）</li> <li>近隣の 13 中学校訪問を 5 回ずつ実施した。（◎）その結果中学校側から様々な情報を得ることができた。</li> <li>テーマ別研究校として福井高校で人権研修を行った。大阪府教育委員会主催高校生活オリエンテーション、進路支援説明会、泉北地区多言語ガイダンス、就職支援説明会、多文化進路ガイダンス、堺市多言語進路ガイダンス、などに参加協力した。（◎）</li> </ul> |
|--|--|--|---|---|